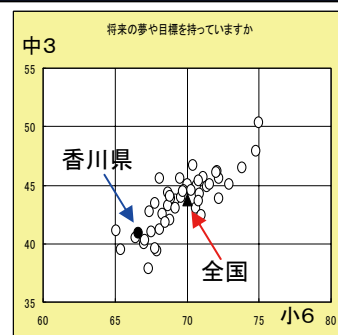


# 1 自分の夢や目標に向けて努力することの大切さを実感させる

全国学力・学習状況調査の質問紙調査で、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、本県は全国との比較において低くなっています。

夢や希望がなければ、毎日がんばろうという意欲も高まりません。児童一人一人が、学校生活に自分なりの目標を持って取り組むこと、さらには、自らの夢や希望をふくらませ、それを実現するためには今どのような取り組み方をしなければならないかを考えることが大切です。

今日では、幼児期から高等教育まで発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実が求められています。中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月）においても右のように述べられており、今後、各小学校におけるキャリア教育の在り方についても検討していく必要があります。



当てはまると回答した児童生徒の割合

## 小学校段階における推進のポイント

小学校は、身近な人から集団へと人のかかわりを広げながら、皆のために働くことの意義を理解し、自分の役割を主体的に果たそうとする態度を育成する時期である。また、日常生活や学習に高い目標を立て、希望と目標を持ち努力して達成しようしたり、自分の特徴に気づき、良いところを伸ばそうとしたりする時期でもある。

「働くこと」の意義を理解することや、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」を理解し行動すること、これらを「学ぶこと」の意欲につなげることが必要である。

（中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(1)②義務教育」より抜粋）

## 【具体的な実践事例】

- 学級活動「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」での、希望や目標を持って生きる態度の形成や働くことの意義の理解における、個人目標の自己決定に向けた指導の充実を図る
- 児童一人一人とのキャリア・カウンセリングを位置付ける

## 実践事例①：学級活動で自分の夢を考える

ある学校では、6年生の学級活動において、自分の将来を想像することで、自分の生き方について考え、目標を持って前向きに努力することの大切さに気付くことができるようにしています。

授業では、長所や好きなことなど、自分をしっかりと見つめ、これからどう生きていくかを想像して「未来設計図」をつくります。年齢ごとに、そのとき自分はどうしているかを想像させ未来への夢や将来への期待感をもたせ自分自身について前向きに考えさせるようにしました。

### <指導過程>

- ① 「未来設計図」を書く
  - ・わたしは保育士になりたいけれど、どんな学校に行けばいいのかな
- ② グループで交流し、お互いの考えを聞き合う
  - ・〇〇さんは、将来のためにもう努力しているんだな
- ③ なりたい自分を目指すために大切なことについて話し合う
  - ・自分はできると信じる
  - ・自分のできることをどんどんやっていく

未来設計図をつくった後、「なりたい自分」を目指すために必要なことは何かを話し合います。最後には、児童一人一人に家族からの手紙を渡しました。家族からの温かい思いに触れ、今できることを一生懸命やろうという意欲が高まるとともに、それが自分を大切にすることだと気付けたようです。

#### ④ 家族からの手紙を読んだり、学習したことを参考にしたりして自分への応援メッセージを書く

- ・今まで何でもすぐあきらめていたけれど、挑戦してみよう
- ・自分に向いている仕事とは何だろう、もっと調べてみよう

## 実践事例②：1年後の目標を学級担任と保護者が応援する

ある学校では、学年初めに、一年後の目標に対して、本人はどのような努力をしていくか、学級担任や保護者はそれぞれどのように応援するかについて、本人と学級担任と保護者の三者が相談し、具体的なイメージを共有しています。

自分のよさや長所が自覚できている児童は、それを学級担任や保護者から認められることで自信を深め、より高い目標を定め、どのような努力をしていくかを主体的に計画します。

「今できないことができるようになりたい」とか、「もっと友達とうまくかかわれるようになりたい」といった願いを持つ児童もいます。そうした児童の多くは、できるようになるための方法が分からないとか、継続できないといった不安や悩みを抱えています。そうした児童には、取組方法を提案したり、学級担任や保護者がどのように応援するかを具体的に示します。

「がんばりたいことがない」、「やってもできない」と思い込んでいる児童もいます。例えば、Aさんは、授業中も興味が湧かないと取り組まず、周囲から繰り返し促されると暴力的な言動をしていました。しかし、学級担任と保護者が寄り添い落ち着いて考えることで、「遅刻を減らすこと」、「係活動をすること」、「自分のペースで学習に取り組むこと」を目標に掲げることができました。Aさんは今、くじけそうになる度に学級担任や保護者の応援を受け、1年後の自分づくりに取り組んでいます。



## 効果を上げるためのチェックポイント

### ○ 掲示物等を活用して常に目標を意識するように促す

自分になりたい姿、自分がしたいこと、自分が果たさなければならない役割に対して強い思いを持ち続けることができれば、おのずと努力を継続することができます。目標を教室に掲示しておくなどして、常に児童一人一人が自分の目標を意識できるような環境を工夫することが大切です。

### ○ スモールステップの目標とその成果を大切にす

目標が大きくなるほど、また、達成までの期間が長くなるほど、今日をどのように過ごせばよいか、今どんなことに取り組むべきかなど、目標達成への意識が低下しがちです。スモールステップの目標を立て、一日一日のがんばりを振り返るなどの工夫が必要です。

## 2 体験や日常生活とつなぎ、これからの生き方を考える

「これまで、僕は相手を傷つけてしまうような言葉をたくさん使ってきました。すぐにはなおらないかもしれないけれど、少しずつ言葉遣いを変えていきたいです。」

ある道德の時間で、最後に発表した児童の言葉です。この児童は、その時間に扱われた道德的価値を自分とのかかわりで捉え、そして、これからの生き方を考えたのでしょう。

平成23年度から全面実施となる学習指導要領では、道德、特別活動、総合的な学習の時間のいずれの目標にも「自己の生き方」を考えることについての記述が盛り込まれており、今後各領域等での指導の充実が求められています。

生徒指導提要に「道德教育で培われた道德性や道德的実践力を、生きる力として日常の生活場面に具現できるように援助することが生徒指導の働き」とあるように、特に道德の時間の指導の充実と、指導の効果が児童の日常生活に反映されるよう働きかける生徒指導の充実が必要です。

道德の時間には、右にあるように道德的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めます。

その際、児童が日常生活や多様な体験活動とつないで考えるように工夫することで、道德的価値を自分とのかかわりで考えたり自己理解を深めたりすること、あるいはこれからの自己の生き方について考えることができるようになることが大切です。

道德的価値の自覚及び自己の生き方について考えを深める  
道德的価値の自覚については、例えば次の三つの事柄を押さえておくことが考えられる。

- ① 道德的価値についての理解である。道德的価値が人間らしさを表すものであるため、同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。
- ② 自分とのかかわりで道德的価値がとらえられることである。そのことにあわせて自己理解を深めていくようにする。
- ③ 道德的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題が培われることである。その中で自己や社会の未来に夢や希望が持てるようにする。

児童は、道德的価値の自覚を深める過程で同時に自己の生き方についての考えも深めているが、特にそのことを強く意識して指導することが重要である。

(小学校学習指導要領解説 道德編より)

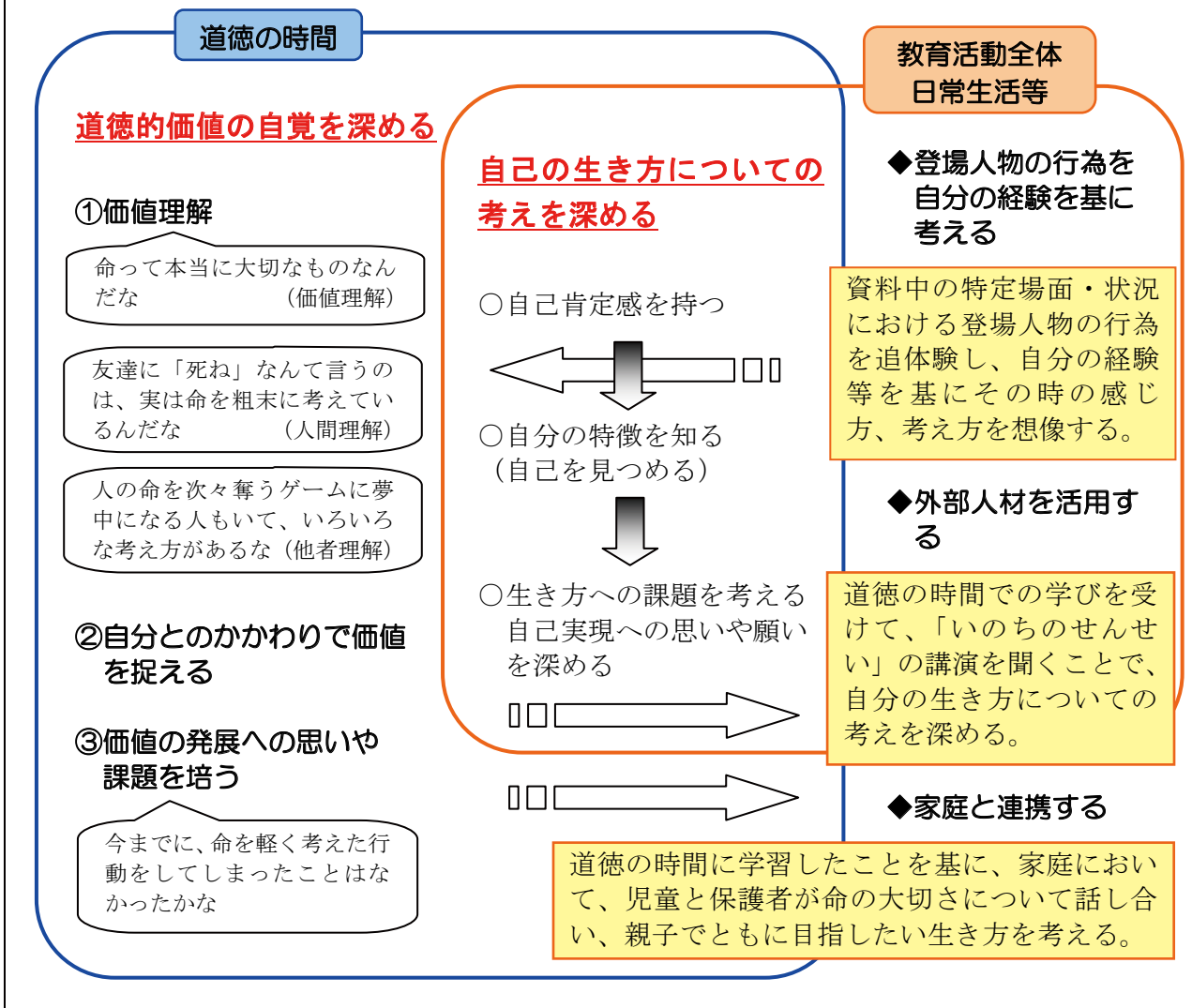
### 【具体的な実践事例】

- 教育活動全体との関連を図った道德の時間の指導を工夫したり、体験活動とその事前・事後活動の充実を図ったりすることで、児童が自己を見つめ直し、自己の生き方についての考えを深められるようにする

### 実践事例①：道德の時間に、自分の生き方を考える

ある学校では、道德の時間に、児童一人一人が、道德的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることができるよう、児童の実態を踏まえた教材研究や資料開発を行うとともに、次頁の図表に示すように、「道德的価値の自覚を深める過程の重視」や「自己の生き方についての考えを深めるための手だて」を工夫しています。

例えば、命を扱った授業では、児童が「命の尊さ」を自分とのかかわりで捉え、課題を培います。その際、自己の生き方についての考えが深まるよう、追体験の場づくりや外部人材の活用等の工夫をしたり、家庭との連携を図ったりしています。



### 効果を上げるためのチェックポイント

#### ○ 様々な人とかかわり合う活動を充実させる

様々な人の生き方に出会うことは、自分の生き方を考える機会になります。例えば、「友情」という価値についてもいろいろな生き方 (考え方) があることを感じ取ったり、自分の目標や憧れとなる生き方を見つけたりすることができます。こうしたことから、自己を見つめ高める態度を育てるためには、様々な人とかかわり合う活動を充実させることが大切です。

#### ○ 児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めるための発問や活動を工夫する

道徳の時間の指導においては、読み物資料の登場人物の行為に対する感想や道徳的価値の単なる理解に留まることなく、自己の生き方へとつないでいくことが大切です。そのために、道徳的価値を自分とのかかわりで捉えたりこれまでの自分自身を振り返ったりできるように、発問の仕方や書く活動の位置付け方を工夫することが大切です。